地域に〝おせっかい〟の輪

商店街でイベント 認知症当事者が店員

あいらいふ京都店、エクセレントケアシステム（徳島市）、多世代まちづくり団体「コノチカラ」（京都市）は4月13日、高齢者の生きがいづくりと街おこしを目的とした地域参加型イベント「おせっかい商店街」を京都市北区で開催。人口減少や高齢化が進む地域社会に新たな活力をもたらす試みだ。

同イベントは、認知症と診断されたシニア世代が1日限定で飲食店の店員となり、買い出し、調理、接客などを体験するもの。当事者に働き手として活躍してもらうことで、認知症になっても尊厳をもって暮らせる社会の実現を訴える。「地域の人々とシニア世代の居場所づくり」を目的として、まごころサポート京都あいらいふ店が運営する食堂「Working Dining SOW」を会場に、店舗が立地する新大宮商店街の全面的な協力を得て実施された。

当日は、エクセレントケアシステムが運営するグループホームなどに入居中の女性4名が「おしごとにん」として参加。小学生ボランティアら「おせっかいにん」に見守られながら、来店者約30名に「特製チキンカレーセット」を提供した。

来店した「おしごとにん」の家族からは「久しぶりに妻の手料理を味わうことができた」「母が生き生きと働く姿を見ることができた」といった声が寄せられた。参加した当事者からも「人と関われて嬉しい」との感想が聞かれた。

コノチカラのメンバーを務める大宮商店街の平元俊一氏は「この場で生まれた素敵な人と人とのつながりを、まちづくりや多世代共生の力に変えていきたい」と語った。同店舗では、今後も同イベントの定期的な開催を検討していく。

定期開催へ意気込み

▲小学生ボランティアが見守り

◀家族や地域住民が訪れた

点検 介護保険

第178回

保険者を３類型、異なる介護に

地域特性に合わせ規制緩和

昨年の介護報酬改定で訪問介護事業者が苦境に陥っている。基本単価を約2％切り下げられた打撃は大きい。

過疎地は人手不足と人口減により利用者の漸減がある。NHKの調べでは、訪問介護事業所がない町村は109を数え、一つしかないのは268町村に及ぶ。合計377町村になり、全1718市町村の2割にもなる。

なかでも、遠距離の高齢者の自宅に時間をかけて訪問している地方の事業者の困窮度は高い。「せめて移動時間に対する報酬があれば」と、訪問ヘルパーが介護保険制度の「欠陥」として国を相手に訴えた。認められなかったものの東京高裁の判決は、事業者の言い分に理解を示す内容だった。

こうした地域の事情を汲みあげて、介護報酬体系の見直しが起きるかもしれない。4月7日に開かれた厚労省の「2040年に向けたサービス提供体制等あり方」検討会の中間報告書に注目したい。高齢者人口がピークとなるのが2040年。その年を見据えて、全国一律の介護報酬や事業所の運営基準を人口規模や地域特性に応じた新しい制度に変えようという方針を打ち出した。画期的な方向転換である。

2040年には地域によって高齢者人口に大きな差異が生じることに着目した。2025年から40年にかけて、東北5県や九州5県、四国4県など19県で高齢者数は減少する。そこで人口規模で全国の自治体を3類型に分類する。「大都市部」「一般市等」「中山間・人口減少地域」である。その人口規模は未定だが、厚労省が3月時点で公表した分類では「大都市圏」「地方都市」「過疎地」、あるいは「政令市・特別区・県庁所在地」「前記を除く市」「町村」としていた。「人口100万人以上」「人口20万人以上」「前記以外」と分類した図表も示している。

それぞれの地域でどのような取り組みをするのか。「中山間地」は人口減少に伴い職員の確保が困難になる。そこで「常勤・専従要件や夜勤など、配置基準についての弾力化が考えられる」とし、「施設の一部で障害福祉サービス、保育等を行う場合に、地域密着から広域型への転用など柔軟な枠組みの検討」などを提案する。

訪問系サービスについては、具体的な指摘が目を引く。その報酬体系が「『回数』を単位として評価しているため、利用者の事情による突然のキャンセルや利用者宅間の移動に関わる負担が大きい」と課題をあげる。キャンセルと移動時間問題は、ヘルパー裁判で原告ヘルパーが「労働基準法違反」として主張してきた。同様の問題意識が叙述され、対応策として「包括的な評価の仕組みを設けることも考えられる」と提言した。

続けて「その際、訪問に要する時間・コストの負担のあり方に留意しつつ、関係審議会で十分な議論が必要である」と背を押す。関係審議会とは今後開かれる社会保障審議会の介護保険部会と給付費分科会である。

ここで「回数を単位」とは出来高制のこと。これを回数に関係なく全体を一括した報酬、すなわち包括制に切り替えるのは、報酬体系の大きな流れに沿う考え方だ。小規模多機能型居宅介護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護などではすでに定着している。

一方、「大都市部」でも訪問系サービスの再検討を促す。「夜間の定期的な訪問のニーズは少ない」ことから、夜間対応型訪問介護と定期巡回・随時対応型訪問介護看護を見直し、「訪問や通所サービスなどを包括的に組み合わせることも検討」と提案。そこにICTやAI技術の活用で24時間365日の見守りを確保してはとある。

長期的な目標ではあるが、3類型という考え方の基本が示されたことは確かなようだ。

ジャーナリスト
元日本経済新聞編集委員
浅川 澄一

高齢人口が大都市で増加、過疎地で減少
2025年→2040年の人口の変化

	年齢区分別人口の変化率の平均値	
	生産年齢人口	高齢人口
大都市型	▲11.9％	17.2％
地方都市型	▲19.1％	2.4％
過疎地域型	▲28.4％	▲12.2％

・大都市型：人口が100万人以上、又は人口密度が2000人/k㎡以上
・地方都市型：人口が20万人以上、又は人口10～20万人かつ人口密度が200人/k㎡以上
・過疎地域型：上記以外
※出所：国立社会保障・人口問題研究所

介護Biz

高齢者施設・福祉施設の食事を完全サポート
すまぁとミール
調理済
盛付済
洗浄不要
「すまぁとミール」ってなに？
セントラルキッチンで調理を行い、器に盛り込んだ状態で施設へお届けする新しいサービスシステムです。さらにお食事後の洗浄作業もいらないことから、専属で厨房作業を行う人員を確保する必要がなくなります。

食事の管理状態をチェックすることが可能。
セントラルキッチンで調理・盛付したお食事をお届けします。
タイマー付き再加熱機で温めるので、適時適温で提供ができます。
さらに食器の洗浄もセントラルキッチンで行います。
最小限の設備でスペースの有効活用
調理・盛付・洗浄不要で手間なし
安心の衛生管理
アツアツの食事を同時提供
株式会社日本医療食研究所
人・食・健康をシステムする
お問い合わせ
埼玉県さいたま市北区東大成町2-250-3KBLビル
TEL.048-666-1955